

2004年度三重大学人文学部における

F D 活 動

報 告 書

2005年（平成17年）3月
三重大学人文学部

I. 2004 年度 F D 活動の総括

人文学部に F D 委員会が設置されたのは 2003 年度のことであるから、本年度は F D 活動の 2 年目となる。他大学と比較した時 F D 活動への取り組みの開始は早かったとは言えないが、人文学部教員の F D への関心は決して低くはなかった。本年度の成果は、そのことをよく示していると言えよう。

昨年度の F D 委員会は、本学部の教授会構成員に対し F D 活動の意義と必要性について啓発活動を深めるとともに、本学部における F D 活動のあるべき姿について検討を重ね、一定の方向性を示した。本年度の F D 委員会は前委員会が示した基本方針を具体化することを主たる任務と考え、様々な試みを行ってきた。以下に三重大学人文学部における今年度の F D 活動の概要を紹介し、その意義と課題を示して、一年の総括としたい。

本委員会がもっとも力を入れて取り組んだのが、毎月定例で開催した F D 研修会である。F D 活動が有意義なものとなるためには、何よりもまず参加者の自発的・積極的な姿勢が必須であることは言うまでもないが、そのためには参加者にとって魅力的な研修会を用意することが必要である。しかし、人文学部にふさわしい F D 研修会のあり方はいまだ明確とは言えず、委員会は手探りに等しい形で内容形式の両面にわたり多様な研修会の実施を試みなければならなかった。

本年度の月例 F D 研修会は、5・6・7 月（以上前期）、10・11・12 月（後期）の 6 回にわたり実施された。実施日時は、各月の第 2 水曜日の 2 時から 3 時までの 1 時間としたが、こうした時間設定は新しい試みだったと言える。この開催時間は学科会議と教授会との間に挟まれた 1 時間で、F D 研修会のために当該月の教授会は通常より 1 時間遅らせ 3 時から開催して頂くこととなった。

こうした研修会の時間設定は、本来なら異例というべきものであり、貴重な時間を占有使用することに対する批判も少なくはなかった。しかし、当初意図した通り教員の参加率は、いずれの月例研修会においてもきわめて高いものとなった。公務その他のやむを得ない場合を除けば、ほぼ 100% に近い参加率であったと思われる。

F D 研修の有効性は参加率の高さそのものに強く規定されるという事実は、F D 活動の参加者の多くが認めている点である。この点からみれば、こうした工夫には一定の意義があったと思われる。しかし、こうした研修会形式の意義を認める意見がある一方で、「回数が多すぎる」という声も少なからず聞かれ、形式・回数ともに再検討の余地は大きいと言える。

以下、具体的に月例研修会の概要を記す。

- ・ 5 月研修会（5 月 12 日実施）：『2003 年度 F D 研修会活動報告書』の主に III と IV について、F D 委員（前年度報告書執筆者）より、内容説明と質疑応答を行った。

・6・7月研修会（6月23日、7月14日実施）：カリキュラム単位ごとに、授業改善策について報告と議論を行った。具体的には1名の報告者が、自分の担当科目につき、授業の内容と講義プログラムを説明し、学生アンケートの結果を元に具体的な講義の改善策を提示し、参加者と共に討議検討を行った。

・10月研修会（10月13日実施）：全体会形式で、「人文学部におけるホームページ提供の現状と課題：e-learningのシステム構築の一環として」という統一テーマのもとに3つの報告がなされ、それをめぐる質疑応答が行われた。

・11月研修会（11月10日実施）：テーマ別の分科会形式で研修会を行った。参加者は次の5部会に分かれ、研修を行った。

A部会：講義における学生参加型授業、双方向型授業など、学生の意欲を引き出す工夫

B部会：教材や補助教材（教科書、ビジュアル教材、板書、ハンドアウト等）の活用方法

C部会：演習における工夫

D部会：大学をめぐる環境変化への対応

E部会：ホームページの作成方法

・12月研修会（12月8日実施）：各カリキュラム単位に分かれて研修会を開催した。本年度のFD活動についての評価と次年度以降のFD活動についての意見交換を研修テーマとした。また、同時にFD活動についてのアンケートも実施した。

前期の月例FD研修会では、学生の授業評価の活用の仕方と授業改善の可能性について、教員相互の意見交換を行い、授業のあり方について議論を深めることが中心となった。これにより、本学部教員のFD活動に対する意識と関心の方向がひとまず明らかになったと言える。

後期の月例研修会では、授業の質的向上に実際に役立つFD研修の機会を提供することを課題とした。参加者によって関心の高低も、有効性の認識も様々ではあったが、学部としてのこうした試みは初めてのものであり、参加者の得たものは少なくなかったと思われる。

詳しくは次章Ⅱに譲るが、いずれの研修会においても参加者相互の積極的な意見交換とディスカッションがなされた。こうした研修を通して本学部における教育のあり方やFD活動の方向性について重要な論点が明らかになった。こうした活動の記録が蓄積されて行くことによって、本学部における教育の質的向上の重要な基礎資料となることが期待される。

8月6日（金）に開催した夏季FD研修会は、月例研修会とならぶFD活動のもう一つの重点であった。この研修会では、佛教大学の達富洋二先生をお招きし

て「FD活動の現状と展望－佛教大学の事例を中心に－」というタイトルで講演をして頂いた。佛教大学は平成12年度に「教授法開発室」を開設し大学教育の質的向上に努めてきたFD活動の先進校で、達富先生はその中心的メンバーの一人である。

外部から専門家を招いてFD研修会を行うことは、前年度の委員会から引き継いだ重要課題のひとつであった。達富先生には、パソコンや携帯電話を用いた新しい大学教育の方法の紹介と、大学におけるFD活動の意義の2つのテーマを中心に、豊富な体験に基づくお話をしていただいた。

達富先生のご講演によって、参加者の多くが現在の大学教育におけるFD活動の意義と必要性を実感した。この点への評価は、12月に行われた「FD活動に関するアンケート」(Ⅶ参照)からも明らかであるが、それにとどまらず、ご講演の後に開催された、達富先生を交えてのパネルディスカッションはきわめて充実したものとなった。本学部の教員からなる4名のパネリストは、それぞれの立場から周到な質問と議論を行い、達富先生はFD活動にまつわる、より生々しく核心に迫る発言をもって答えられた。フロアからも、FDの課題と問題点に関わる適切な発言が多くだされた。

この時の意見交換と議論の内容は、きわめて臨場感あふれる文字記録となって、本報告書Ⅲに収録されている。本学部教員の日頃のFDへの高い関心と熱意とが、この夏季研修会での充実した意見交換と討議となって結実したと言えよう。

教授法の工夫や改善はFD活動の最大の目標であるが、「授業参観」はそのための最も有効な手段のひとつと考えられる。本委員会はその実施に向けて様々な努力を行った。しかし、受講学生への影響、参観人数の調整、授業内容の継続性との兼ね合い、などの問題点を指摘する声が多く、広汎な形での実施は見送ることとなった。それに代えて、若手教員(着任3年以内)の希望者に限って実施することとした。実施期間(12月の1ヶ月)がごく限られていたため、本年度は、2名2科目のみの実施にとどまった。しかし、参観者の評価はきわめて高く、今後の充実が望まれる。

昨年に引き続き、学生による授業評価のアンケート調査を行った。FD委員会が行なう調査としては2回目であるが、一昨年に教務委員会がほぼ同一内容のアンケート調査を行っており、本学における「学生による授業評価」の調査としては3回目となる。

調査票は、継続性を重視して昨年と同一の調査項目を用いたが、ごく一部に修正を加え、項目を追加した。また、本年度より、いわゆる「リレー講義」(複数の教員による講義)についての調査項目を追加した。このアンケートの集計結果は、昨年度と同じく当該授業の担当教員(非常勤講師を含む)に配布し、授業の質的向上の一助とした。

なお、この学生アンケートは昨年より実施しているが、その結果をどのような形で公表すべきか、その基準作成は本年度の委員会がもっとも苦心した点であった。学生の赤裸々な、時として恣意的ともなりうる授業評価を、自由記述も含めて広く一般に公開することには問題点が多く、授業担当者の了解の得られる可

能性も低い。委員会は公開の仕方について慎重に検討し、アンケート結果は、その「原票」のみを学部内で公開することとした。本年6月には事務室総務係の一角に専用キャビネットと閲覧机を用意し、人文学部教員の誰もがすべての授業のアンケート原票を自由に閲覧できるようにした（ただし、回答者が5名以下の授業については、回答者が判別される可能性があるため非公開とした）。

アンケート原票そのもの、とりわけ自由記述欄の閲覧により、本学部の教員は自分の担当科目以外の授業についても学生の評価、つまり彼らがどの授業のどの点を評価しているか、逆に何に不満をもっているかを、かなり正確に知ることが可能である。人文学部の教員がこうした情報を共有することで、本学部の教育の質的向上がさらに促進されると思われる。

学生評価の調査結果のうち公開されているのは原票のみで、個々の授業についての各項目の集計結果は公表していない。そのため、閲覧者が、授業（ひいては教員）相互の数値による比較やランク付けを知ることは困難である。つまり、教員評価の資料としての有効性は低く、この点がアンケート結果の公開に対してほとんど反発の声が上がらなかった理由だと思われる。

学生アンケート実施にあたって本委員会がとくに留意した点は、「教員評価」と学生の授業評価の関係である。大学全体の評価とともに個々の教員の評価も現在の大学の大きな論点となっている。その重要な尺度の一つが「学生による授業評価」である。しかし、本委員会が実施してきた「学生アンケート」の目的はあくまで「授業の質的向上」をめざすものである。その結果を「教員評価」の基礎資料として活用すべきだという意見は一部には根強く存在する。しかし、本委員会はFD活動の一環としての「学生アンケート」は「教員評価」には流用させない方針をとってきた。調査結果の二次転用は本来の目的を損なう可能性が高いことを、われわれはアンケートの実施と結果の分析の過程で実感してきたからである。

教員による「授業に関するアンケート」も昨年に引き続き実施された。その分析結果をみると、本学部の教員が授業方法について様々な工夫を行っていることがよく分かる。とりわけ印象的なことは、本学部における授業の形式的な多様性である。旧来の一方的な講義形式のものだけでなく、様々な形態の授業が行われ、様々な教育手法や教材の活用がなされている。このことは、本学部教員の多くが、FD活動に対する関心の高まる以前から、教育方法の改善に積極的に取り組んできたことを示す調査結果といえるだろう。

また、昨年度の調査結果との比較分析をみると、本年度だけでも様々な教育改善の努力がなされていることが分かる。「FD元年」と誇りうる成果である。

なお昨年度は、教員に対し「卒論生・学部留学生・研究生の指導に関するアンケート」というタイトルの調査を上述の調査と同時に実施した。しかし、本年度は、同一趣旨の調査を2年にわたり実施しても意味のある結果は得られないとの判断から実施を見送った。

本年度のFD委員会の活動は、新しい試みや不慣れな作業が多かったためもあって、すべてが順調に進んだとは言い難い。試行錯誤が多かったこともあり、今年のFD活動は首尾一貫性や完成度の点において十分なものだったとは言い難い

かも知れない。しかし、本委員会に課せられた所期の目標の多くを実現できたという点においては、一応の成功をおさめたと言えるのではないかと思う。これはひとえに教職員のFD活動の重要性の認識の賜物と言えよう。本年度の試行をとおして、本学部においてどのようなFD活動が必要で可能かという点も、ある程度は明らかになったと思われる。

FD活動は、本学部が策定した「中期目標・中期計画年度計画」でも重要な項目となっている。本年度のFD委員会の活動は、この計画で措定された目標について「達成」への道筋を明らかにし、かなりの前進を果たした。中期目標の達成は実現可能な射程に捉えられたと言っても間違いではないだろう。

最後に指摘しておきたい点は、FD活動に対する人文学部教員の意見と評価の多様性である。それはとりわけ個々の研修プログラムに対して大きい。このことは、個々の教員がFD活動に求めているものが、その年齢・キャリア、担当科目の特質、大学教育への姿勢等々によって、きわめてバラエティーに富んでいるということを意味している。つまり、「誰にも有用なFD活動」というものはごく少なく、もし今後本学部のFD活動が画一的なプログラムの提供にとどまるのならば、その活動自体がごく短期間に行き詰まってしまうことになるだろう。FD活動に携わるであろう方々にこの点への留意をお願いして、総括を終えたい。

1. 委員会の人的構成

昨年度中から、FD活動に対し人文学部が一丸となって取り組むことの必要性は、学部全体の共通認識となっていた。そのため、本年度の委員は、各地域と専修、プログラム単位より1名ずつ委員が選出されて、委員長以下8名の陣容となった。昨年度より2名増員されたことになる。この1年間の、多大な労力を必要とする委員会活動がさしたる遅滞もなく全うされたのは、ひとえにこの強力な陣容のおかげと言って良い。

2. 活動の細目

- 1) 2004年3月30日(火) 前委員長より「2004年度人文学部FD活動計画素案」を引き継いだ。
- 2) 4月6日(火) 第1回FD委員会を開催し、以下の8点を審議した。
 - ①2003年度の学生アンケートの自由記述の取り扱いについて
 - ②月例FD研修会の計画について
 - ③夏季FD研修会について
 - ④シラバスの検討について
 - ⑤授業参観について
 - ⑥学生・教員アンケートの実施について
 - ⑦教授会への提案内容について
 - ⑧その他
- 3) 4月28日(水) 第2回FD委員会を開催し、以下の7点を審議した。
 - ①オブザーバー委員の参加について
 - ②委員の役割分担について
 - ③2003年度学生アンケート原票の取り扱いについて
 - ④月例FD研修会の実施について
 - ⑤夏季FD研修会について
 - ⑥予算要求について
 - ⑦その他

- 4) 5月12日(水) 5月月例研修会を開催した(全体会)。
- 5) 5月26日(水) 第3回FD委員会を開催し、以下の4点を審議した。
 - ① 6月月例FD研修会について
 - ② 7月月例FD研修会について
 - ③ 前期学生アンケートの実施について
 - ④ その他
 - ・ 授業参観について
 - ・ 前期学生アンケートの実施日程について
- 6) 6月9日(水) 6月月例研修会を、各プログラム単位ごとに実施した。
- 7) 6月23日(水) 第4回FD委員会を開催し、以下の6点を審議した。
 - ① 8月夏季FD研修会について
 - ② 7月月例FD研修会について
 - ③ 9月以降の月例FD研修会について
 - ④ 授業参観の実施について
 - ⑤ 人文学部ホームページへの掲載事項について
 - ⑥ その他
 - ・ FD合宿研修について
 - ・ 前期アンケートの集計について
 - ・ 人文学部ホームページの活用について
- 8) 7月2日(金)～8日(木)「授業に関するアンケート」(学生対象)、および「授業(講義・演習)に関するアンケート」(教員対象)を実施した。
- 9) 7月14日(水) 7月月例FD研修会を、各プログラム単位ごとに実施した。
- 10) 7月21日(水) 第5回FD委員会を開催し、以下の4点を審議した。
 - ① 8月夏季FD研修会概要の最終確認
 - ② 8月夏季FD研修会の実施要領と役割分担について
 - ③ 後期FD研修計画の策定について
 - ④ その他
- 11) 8月6日(金) 達富洋二先生(仏教大学教授法開発室)を講師としてお招きし、夏季FD研修会を開催した。
- 12) 8月6日(水) 臨時FD委員会を開催し、以下の点を審議した。
 - ① 後期FD研修会実施案について
 - ② FD委員会予算請求について

③その他

- ・10月の月例FD研修会の講師について

- 13) 10月6日(水)第6回FD委員会を開催し、以下の4点を審議した。
- ①10月月例FD研修会について
 - ②11月月例FD研修会について
 - ③授業参観について
 - ④その他
- 14) 10月13日(水)10月月例FD研修会(全体会)を開催した。
- 15) 10月27日(水)第7回FD委員会を開催し、以下の5点を審議した。
- ①11月月例FD研修会について
 - ②12月月例FD研修会について
 - ③授業参観について
 - ④学生アンケート集計について
 - ⑤その他
- 16) 11月10日(水)11月月例FD研修会を開催した。テーマ部会を5つ開設して研修を行った。
- 17) 11月24日(水)第8回FD委員会を開催し、以下の5点を審議した。
- ①12月月例FD研修会について
 - ②授業参観の実施について
 - ③学生アンケート等の実施について
 - ④委員会に関わる事項のホームページ掲載について
 - ⑤その他
- ・本年度のFD活動報告書の内容について
- 18) 12月8日(水)12月月例FD研修会を、各プログラム単位ごとに実施した。
- なお、この研修会で、人文学部教員を対象に「2004年度FD活動に関するアンケート」を実施した。
- 19) 12月22日(水)第9回FD委員会を開催し、以下の4点を審議した。
- ①「2004年度FD活動に関するアンケート」について
 - ②委員会に関わる事項のホームページ掲載について
 - ③『2004年度FD活動報告書』の内容と担当者について
 - ④その他

- 20) 2005年1月7日(金)～17日(月)「授業に関するアンケート」(学生対象)、および「授業(講義・演習)に関するアンケート」(教員対象)を実施した。
- 21) 1月26日(水)第10回FD委員会を開催し、以下の5点を審議した。
- ①『2004年度FD活動報告書』の作成について
 - ②来年度の「授業参観」実施について
 - ③「教員個人評価に関する基本方針」への対応について
 - ④来年度FD委員会への申し送り事項について
 - ⑤その他
- 22) 2月23日(水)第11回FD委員会を開催し、以下の4点を審議した。
- ①学生アンケートの結果配布について
 - ②次年度FD委員会への申し送り事項について
 - ③『2004年度FD活動報告書』編集作業について
 - ④その他
- 23) 3月2日(水)第12回FD委員会を開催した。以下の4点の審議とFD活動報告書の原稿のすり合わせを行った。
- ①次年度FD委員会への申し送り事項の取り扱いについて
 - ②「中期目標・中期計画年度計画」のFD委員会担当分の達成状況報告について
 - ③『2004年度FD活動報告書』体裁と内容の最終最終編集作業について
 - ④その他
- 24) 3月8日(火)FD活動報告書原稿の最終チェックを行った。
- 25) 3月22日(火)第13回委員会を開催し、引き続き、次年度新FD委員会への引き継ぎを行った。